

# 令和7年度 延岡市立岡富小学校 学校評価

(4段階評価 関係者評価欄に○をつけてください。) 4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

本年度の重点目標 (1 学力の向上 2 心の育成、安全教育の推進 3 体力の向上・健康の保持増進 4 個に応じた支援の充実 5 学校力の向上)

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果のコメント	自己評価	学校関係者	関係者評価コメント
学校力の向上	① 校内研修やOJTを推進し、授業力の更なる向上に努めるとともに、教師一人一人の人間力の向上に努める。 【OJT・相互参観、メンター方式の活用】	主題研究での理論研修や研究授業を通して、仲間となって学び合う授業づくりについて理解を深めることができた。文部科学省指定のリーディングDX事業に向けての取組で、授業のねらいに沿った効果的なICT活用についての理解を深めることができた。メンター方式の初期研修の研究授業を2回行った。よりよい相互参観やOJTの在り方(方法や機会)について具体的に検討・実行できるようにしたい。	3	3	○ホームページやマチコミでの学習風景や情報の伝達、地域の方々の支援(授業の参加やふれあい)、先生方の教育の取組や努力が素晴らしい。 ○様変わりしてきた環境に上手に対応いただいております。 ○子どもたちの学校での様子や活躍がホームページや報道で見られるとうれしい。 ○地域の方々から学校の様々な行事に入りやすくなったという声を聞いた。
	② 校内の様子の積極的な発信や児童の作品応募を通して、保護者・地域からの理解に努める。 【HP・学校だより・報道機関の活用、参観日等の充実】	学校便りや学級通信、新聞等のメディアを通して、児童の頑張りや岡富小学校のよさを伝えることができた。学校ホームページの更新を積極的に行い、地域や保護者からの理解を得られるように努めた。参観日については、全校でメディアについて保護者も一緒に考え、参加する活動を取り入れるなど、各学年で工夫が見られた。			
	③ コミュニティスクールを中心としての学校運営協議会の活性化を図るとともに、社会に開かれた学校づくりに努める。 【学校運営協議会の活用、外部機関団体との連携】	学校運営協議会からつながり、家庭科のミシン支援、延岡PR活動実施に向けてのアドバイス、水泳や宿泊学習における登山の補助など地域の方々との協力の下に具体的に活動することができた。岡小わいわい会議において、保護者と地域のつながりについて熟議を行った。			
心の育成、安全教育の推進	① 生徒指導体制の充実を図り、「岡小みんなのきまり」に基づいた生活態度の育成に努める。 【ふれあい黙想、あいさつ、5つの無言の場、小さなきまりの徹底】	今年度「岡小みんなのきまり」を改訂し、全職員で共通理解・共通実践を行った。また、児童や保護者にも授業や参観日、PTA総会を通して周知した。全学年で挨拶や五つの無言の場、小さなきまりの指導を繰り返し行い、全体としてよくなってきている。今後も、学校と地域・家庭が連携して、安全に過ごせる学校づくりに努めていきたい。	3	3	○あいさつなど、よくできている部分はさらなる向上と維持をお願いしたい。不登校傾向などの児童への対応は、学校、関係各所、地域も含め対応していけるようにしたい。 ○自転車のヘルメット着用、乗り方、横断歩道の歩き方等、交通ルールをそもそも知らない児童がいるのではないかと思う。交通安全について継続的に指導をしてほしい。
	② 全教育活動をとおして、相手の立場を尊重する心の育成や人権意識の高揚に努める。 【丁寧な言葉遣い、人権教育の充実】	人権・同和教育の職員研修を行い、職員の人権意識を高めることができた。また、6年生の社会の授業や全学年の道徳・学活の授業で人権に関する内容を取扱い、児童の人権意識も高めてきた。人権作品展にも積極的に参加した。丁寧な言葉遣いについては、名前をつけて挨拶をすること、「～さん」と友だちを呼ぶことなどを適宜指導した。			
	③ 不登校児童に対する支援の充実に努める 【不登校に関する会議等の充実】	月に1回全職員で生徒指導対策会議を行い、支援が必要な児童に対する共通理解を図ることができた。特に、不登校や不登校傾向の児童について、SSWやSC、関係機関と連携し、関係職員でケース会議を開いた。一人一人の状況に応じた支援に努めることができた。迅速な協議と対応を今後も推進していきたい。			
	④ 避難訓練や日常的な安全指導、定期的な安全点検を通じて防災や安全面の充実に努める。 【防災・安全教育の充実】	避難訓練や不審者対応訓練では、より実践的な訓練になるよう、訓練内容を工夫するとともに、専門家の方を招いて助言をいただきながら、来年度に向けて訓練内容を見直した。計画的に安全点検を実施し、危険個所の把握や修繕に努めた。			

体力の向上・健康の保持増進	① 体育に関する行事等を通して、規律、集団行動の充実や体育的活動の高揚、促進を図る。 <b>【体育行事の充実】</b>	水泳指導、運動会、時期に応じた運動について、できることを考慮・精選し、年間を通して体力づくりを進めた。また、救急救命法の職員研修やプール指導の見守り等で、地域の関係機関や保護者との連携を密に行い、体育的活動の安全な実施に努めた。	4	4	<p>○心身の健康、バランスのよい食事の摂取等を含めた生活習慣や外遊びの推奨などで健康で元気な体作りができる。</p> <p>○子どもたちが普段、友達と一緒に公園で遊んでいる姿を頻繁に見かけることがとてもよい。外遊びをたくさんさせてほしい。</p> <p>○地域のラジオ体操に参加する児童が少なくなったと感じる。</p>
	② 個に応じた体力向上の推進に努める。 <b>【岡小体力アップトレーニング・外遊びの推奨】</b>	体育の授業では、「岡小体力アップトレーニング」として、けが防止のための準備運動や、体力向上・体幹を鍛えるための運動を取り入れた。1年を通して継続して実践していきたい。			
	③ 望ましい生活習慣の確立に努める。 <b>【生活リズムチェック週間、熱中症防止】</b>	学期に1回、家庭と連携して「生活リズムチェック表」を活用しながら、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣づくりに取り組んだ。また、全体の傾向を知らせて啓発することで、生活習慣の確立を図った。熱中症対策として、日ごろから水筒持参の推進や放送での注意喚起を行い、安全対策に努めた。			
	④ 食育を通じ、食べることの大切さや健康へのつながりの認識を深める。 <b>【食育の充実】</b>	栄養教諭による食に関する指導や給食だよりの発行、チャレンジクッキングの取組を通して食育の充実を図った。また、給食ひとロメモの放送や給食感謝週間の取組によって、食に対する感謝の気持ちや態度の育成に努めた。			
学力の向上	① 学習環境や教材、ICT を効果的に活用し、児童の学習意欲の向上に努める。 <b>【指導内容の精選、具体物の活用とICTの活用】</b>	リーディングDX研修もあり、ICTの効果的な活用法を学年・学年部で吟味して、取り組むことができた。デジタル機器を活用したことで、個に応じた指導にもつながっている。	4	3	<p>○基礎がないと応用の力はつかないので、今後も継続して個々の特性をつかんだ指導をお願いしたい。</p> <p>○「好きこそもの上手なれ」という言葉があるが、ICT活用により、興味をもって楽しみながらの授業で学力が上がっていることがすばらしい。</p> <p>○学校の勉強に加えて、いろんなことを体験させて幅広く、多様なジャンルについて知っている子どもに育ててほしい。</p>
	② 個に応じた指導や協働的な学習の充実に努め、わかる・できる喜びを実感できる授業に努める。 <b>【めあて・まとめの設定、学び合い、高学年一部教科担任制】</b>	ねらいに沿っためあてとまとめの設定に取り組むことができた。学び合いは、今年度の研究のテーマでもあったため、話し合い活動なども様々な形を取り入れており、自然と学び合いが起きるような手立てをとることができた。教科担任制については、学力向上だけでなく、学年全体で児童を見ることができるとの効果が見られたため、さらに推進していききたい。			
	③ 主題研究をとおして授業内容の充実を図るとともに、基本的な学習態度と学習習慣の育成に努める。 <b>【授業力の向上、チャーム黙想・立腰指導・学び合いのルールの徹底】</b>	リーディングDX授業公開もあったため、各学年で子どもたちのゴールイメージを統一し、発達段階に応じて指導することができた。学力の高い児童には、本時の学習内容の定着、ドリル学習だけでなく、タブレットで練習問題を解かせるなど、学力向上も行うことができた。			
	④ 家庭との連携を行い、発達の段階に応じた家庭学習の充実に努める。 <b>【段階的な家庭学習の在り方】</b>	タブレットで問題を解くなどの個に応じた家庭学習を行っているが、学年の発達段階や家庭による差もあり、連携をとることが困難な場合がある。今後も継続して指導していく。			
	⑤ 地域人材の活用やよのなか教室を通じて、児童の将来の夢や職業観の展望を図る。 <b>【キャリア教育の推進】</b>	わいわい会議を開いたことで、地域の方と連絡を取り合える場が生まれ、効果的に活用、支援していただいた。多くの方に協力していただき、ふるさとのよさを実感させたり、将来の夢や希望をもたせたりすることができた。			

個に 応じた 支援の 充実	① 児童理解及び特別支援教育への知見を深め、特別支援教育に係る指導力の向上を図る。 【就学支援、校内教育支援の充実】	関係機関と連携しながら定期的な教育支援委員会の開催や、各学級の特別支援教育目線でのケース会議を適宜開き、校内教育支援の充実に努めてきた。また、コーディネーターが「UDハンドブック」の事例紹介を行うことで、活用を促すことができた。さらに、全教室の環境整備を積極的に行うことができた。	3	4	○通級指導教室の開設など、個に応じた支援が毎年拡充してきているのを感じる。学校、保護者、外部機関がうまくつながる関係をこれからも築いてほしい。 ○個に応じた支援が重点目標に上がっていること自体が素晴らしい。先生方にも個性があり、得意なことがそれぞれあると思うので、その個性が生かされた教育ができるとうい。
	② 関係機関・団体との連携並びに特別支援学校との交流を通じた学習を推進する。 【外部機関との連携の充実】	定期的に学校外部の専門家の巡回相談を要請し、児童の観察及び支援の助言等を担任・保護者が受ける機会を設けた。また、定期的に放課後等デイサービスの担当者と各担任・保護者とで利用する児童についての実態やゴールイメージを共有することで、効果的な指導を行う手立てとした。学校間交流や居住地校交流を計画・実施することで、職員・児童の特別支援教育への意識を高めることにつながった。			
	③ 特別支援教育に関する研修を深め、特別支援教育の視点の拡充・浸透を図るとともに、福祉教育の充実を進める。 【特別支援教育に関する研修・福祉教育の充実】	年度当初に専門性のある外部講師による研修を計画・実施し、特別支援教育に対する具体的な支援の在り方について学ぶことができた。また、特別支援部で積極的に各種研修に参加し、特別支援教育に対する見地を広げた。さらに、そこで得られた情報等を校内研修で取り上げ、全員職員に共有することができた。			

次年度に向けて

<p>○学校力の向上…学校運営協議会で保護者と地域の方々との熟議を行い、地域の良さや課題を共有することができた。学校の活動と結びつけ、協働できることについて検討していきたい。次年度も積極的に地域の人材活用を推進していきたい。教職員の教科指導、生徒指導のスキルアップを目指すとともに、職員の「やってみよう」が生かされた研修の充実を図っていきたい。</p> <p>○心の育成・安全教育の推進…今後も毎月アンケート、教育相談を行い、外部機関と連携しながら、丁寧に対応していきたい。避難訓練については、専門家の意見を踏まえ、学校での組織的な避難訓練に加え、どのような場においても児童が自ら考え、判断する避難訓練を計画、実行していきたい。</p> <p>○体力向上・健康の保持増進…生活習慣改善のために学期に1回生活リズムチェック週間を設定したり、参観日で学年ごとに児童と保護者が一緒になって考える機会を参観日に設定したりして、家庭への啓発を進めることができた。今後は規則正しい生活リズムを継続して実行していける在り方について考えていきたい。</p> <p>○学力の向上…リーディングDX事業で学習のねらいに沿ったICT活用の仕方について研究を深め、学力調査でも平均点が県や全国を上回ることができた。学習用具の準備、授業を受ける心構えなどの指導を年度初めに指導し、徹底していくとともに、知識を活用、表現する力をつけさせるためのICT活用についても研究を深めていきたい。</p> <p>○個に応じた支援の充実…ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりと学習環境づくりを意識するとともに、今後も通級指導教室や各種外部機関、保護者と連携し、児童にとって望ましい就学支援について計画的に検討していきたい。</p>
---